

<会議資料>

平成23年度

第2回 練馬区立美術館運営協議会

練馬区立美術館
(平成24年3月21日)

平成23年度（第2回）練馬区立美術館運営協議会 資料目次

1	練馬区立美術館運営協議会委員名簿	1
2	練馬区立美術館運営協議会条例	2
3	平成24年度事業計画(案)	
	(1)平成24年度予算	3
	(2) 展覧会事業	
	平成24年度展覧会事業日程(案)	4
	バルビエ×ラブルール展 アール・デコ、色彩と線描のイラストレーション(案)	5
	特集展示 平澤熊一展 うちのめされた時がほんとうに人生をしっかりと生きるとき(案)	6
	N+N展2012「感じるアート」(案)	7
	生誕100年 船田玉樹 アヴァン・ギャルド日本画に生きた孤高の画人生 展(案)	8
	棚田康司展(案)	9
	特集展示 人間国宝 大坂弘道展 正倉院から甦った珠玉の木工芸(案)	10
	超然孤独の風流遊技 小林猶次郎展(案)	11
	特集展示 富田有紀子展(案)	12
	(3) 教育普及事業	
	平成24年度 教育普及事業計画(案)	13
4	平成23年度事業中間報告	
	(1) 展覧会事業	
	平成23年度 展覧会事業日程および観覧者数	16
	PLATFORM2011 浜田涼・小林耕平・鮫島大輔 距離をはかる	18
	うす羽の幻想 鍋木昌弥展	19
	N+N展2011 生命をみつめる	20
	磯江毅=グスタボ・イソエ マドリード・リアリズムの異才	21
	生誕130年 松岡映丘 - 日本の雅 - 「やまと絵」復興のトップランナー	22
	特集展示 滝瀬源一 スクラッチボードに見る60・70年代の大衆文化展	23
	特集展示 昭和初期のサラリーマン・コレクター 森井荷十コレクション展	24
	特別展 日本画壇の風雲児、中村正義、新たなる全貌	25
	(2) 教育普及事業	
	平成23年度 教育普及事業実績	26
	平成23年度博物館実習実績	33
5	組織改正に伴う美術館条例、美術館運営協議会条例の改正について	34
6	美術の森緑地の整備について	35

第13期 練馬区立美術館運営協議会委員名簿

平成24年3月21日現在

		氏 名	役 職	
学識経験者	会 長	栗 津 則 雄	文芸評論家	
	副会長	高 橋 幸 次	日大芸術学部美術学科教授	
	委 員	青 木 茂	文星芸術大学教授	
	委 員	伊豆井 秀 一	埼玉県立近代美術館 専門員兼学芸員	
	委 員	榎 本 光 生	版画家	
	委 員	大 橋 皓 也	洋画家	
	委 員	小 原 キ ャ	洋画家	
	委 員	草 薙 奈津子	平塚市美術館長	
	委 員	佐 藤 康 宏	東京大学教授	
	委 員	島 田 紘 一 呂	彫刻家	
	委 員	松 本 透	東京国立近代美術館副館長	
練馬区議会 議員	委 員	福 沢 剛	区議会議員	
	委 員	原 ふ み こ	区議会議員	
	委 員	し も だ 玲	区議会議員	
	委 員	こうらい啓一郎	区議会議員	
学校教育関 係者	委 員	田 中 隆 史	三原台中学校長	
	委 員	赤 川 浩 之	下石神井小学校教諭	
社会教育関 係者	委 員	伊 藤 定 夫	練馬文化の会代表	

練馬区立美術館運営協議会条例

昭和 60 年 10 月 8 日

条例第 45 号

(設置)

第 1 条 練馬区立美術館(以下「美術館」という。)の運営方針および事業計画を協議するため、練馬区立美術館運営協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(定数)

第 2 条 協議会は、委員 23 人以内をもって組織する。

(委員)

第 3 条 委員は、つぎの各号に定めるところにより、練馬区教育委員会が委嘱する。

- (1) 学識経験者 16 人以内
- (2) 練馬区議会議員 4 人以内
- (3) 学校教育および社会教育関係者 3 人以内

(任期)

第 4 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長および副会長)

第 5 条 協議会に会長および副会長を各 1 人置く。

- 2 会長および副会長は、委員が互選する。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第 6 条 協議会は、会長が招集する。

- 2 協議会は、委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない。
- 3 会議の議長は、会長が務める。
- 4 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(庶務)

第 7 条 協議会の庶務は、美術館において処理する。

(委任)

第 8 条 この条例の施行について必要な事項は、練馬区教育委員会規則で定める。

付 則

この条例は、公布の日から施行する。

平成 24 年度事業計画案

(1)平成 24 年度 美術館予算

歳入

単位:千円

科目 \ 年度	24 年度	23 年度	増 減	伸び率
総 額	18,422	16,612	1,810	10.9%
1 美術館使用料	9,725	9,125	600	6.6%
2 財産収入	60	112	52	46.4%
3 諸収入	8,637	7,375	1,262	17.1%

歳出

単位:千円

科目 \ 年度	24 年度	23 年度	増 減	伸び率
総 額	131,707	151,757	20,058	13.2%
1 運営費 (一般事務費)	15,485	12,935	2,550	19.7%
2 維持管理費	62,215	85,263	23,048	27.0%
3 展示事業経費	51,995	52,101	106	0.2%
4 教育普及経費	2,012	1,458	554	38.0

美術作品取得基金現在高

単位:円

基 金	平成 24 年 2 月末現在高		
	美術作品取得額	現 金	計
100,000,000	13,587,500	86,412,500	100,000,000

(2) 展覧会事業

平成24年度 展覧会事業日程(案)

3階展示室			2階展示室		
会期	展覧会名	担当	会期	展覧会名	担当
4月8日 6月3日 <49日間>	【有料】 バルビエ×ラブルール展 アール・デコ、色彩と線描のイラストレーション				小野
6月8日 6月17日 <9日間>	【無料】 第58回練馬区美術家協会展		6月8日	【無料】 特集展示 平澤熊一展 うちのめされた時がほんとうに 人生をしっかりと生きる時	上山
6月14日 6月19日 <6日間>	(一般貸出)		7月8日		
6月28日 7月8日 <10日間>	【無料】 N+N展2012「感じるアート」	上山	<27日間>		
7月15日 9月9日 <49日間>	【有料】 生誕100年 船田玉樹 アヴァン・ギャルド日本画に生きた孤高の画人生 展				野地
9月16日 11月25日 <61日間>	【有料】 棚田康司展				小野
11月29日 12月28日 <26日間>	(一般貸出)		11月29日	【無料】 特集展示 人間国宝 大坂弘道展 正倉院から甦った 珠玉の木工藝	加藤 真子
1月12日 1月16日 <4日間>	中学校生徒作品展				
1月19日 1月24日 <5日間>	小学校連合同工展				
1月26日 1月27日 <2日間>	小中学校連合書きぞめ展		2月11日		
2月2日 2月11日 <9日間>	【無料】 第43回練馬区民美術展		<60日間>		
2月17日 4月7日 <43日間>	【有料】 超然孤独の風流遊技 小林猶次郎展	上山	2月17日 4月7日 <43日間>	【有料】 特集展示 富田有紀子展	上山

24年度も「東京ミュージアム ぐるっとパス2011」に参加

鹿島茂コレクション 2 バルビエ×ラブルール アール・デコ、色彩と線描のイラストレーション

開催要項（案）

- 1 開催趣旨 平成 23 年度よりフランス文学者の鹿島茂氏（1949- / 明治大学教授）の膨大な古書コレクションから連続的に展覧会を開催している。第 1 回目は、19 世紀フランスを代表する挿絵画家、J.J. グランヴィルを紹介した。第 2 回目にあたる本展では、アール・デコ期を中心に活躍した共にフランス、ナント出身の 2 人の画家 ジョルジュ・バルビエ（Georges Barbier, 1882 - 1932）とジャン＝エミール・ラブルール（Jean-Emile Laboureur, 1877 - 1943）を紹介する。

バルビエは、当時の代表的なモード雑誌の挿絵や豪華挿絵本のみならず、映画や舞台の衣装デザインまでも手掛け、その活躍は挿絵画家の領域を越えたものであった。大胆な構図と躍動感、美しい色彩が印象的な作品世界は現在もなお多くのファンを惹きつけている。ラブルールは、バルビエのような色彩豊かな画面とは異なり、シャープな黒線によって構成された版画作品を制作した。様々な版画技法を身につけたラブルールは、1920 年代に入ると多くの文学作品の挿絵も手掛けるようになる。あらゆる情景をスピーディー且つファッショナブルなタッチで捉え、人気を博した。本展では、バルビエとラブルール、二人の作品群をほぼ網羅し、対照的とも言えるスタイルの作品世界を展覧する。
- 2 会期 平成 24 年 4 月 8 日（日）～6 月 3 日（日）
- 3 主催 練馬区立美術館 / 読売新聞社
- 4 後援 フランス大使館
- 5 協賛 ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン
- 6 協力 サントリーホールディングス株式会社
- 7 展示内容 版画、古書（挿絵本）、ポスターを中心とした約 95 種（出品点数約 200 点）
- 8 図録 図録兼書籍として制作、求龍堂より出版する。
- 9 観覧料 有料
- 10 イベント 会期中、講演会、ワークショップ、コンサート等を実施する。
- 11 観覧者見込 14,700 人（300 人 / 日）
- 12 担当 学芸員 小野寛子

「平澤熊一展」

うちのめされた時がほんとうに人生をしっかり生きるとき

開催要項(案)

- 1 開催趣旨 平澤熊一(ひらさわ くまいち、1908-1989、新潟県長岡市生まれ)は、建築を学ぶために上京。工学院を卒業したのち、川端画学校で洋画を学ぶ。当時そこには柿手春三や井上長三郎らのちに池袋界隈を拠点にシュールレアリスムを推進することになる仲間たちの姿があり、平沢は彼らと共に画家としての道を歩み始めることとなる。

1933年からの約4年間は、絵描きとして頼るもののない台湾に渡り、貧しい生活の中で孤独な絵画修行を行う。帰国後は阿佐ヶ谷や要町など東京を転々としながら、独立美術協会展に出品しつづけた。しかし太平洋戦争末期、東京が激しい空襲に見舞われると、新潟に疎開。ついで妻の実家のある宇都宮に自ら設計したアトリエを構え、自由美術展を中心に作品を発表した。

本展は、当館に新たに収蔵される油彩画を核に、忘れられた画家・平澤熊一の画業を紹介するもの。台湾各地でスケッチされた風景や現地の風俗、日本に帰国してからできた家族や幼い子どもたちの肖像など、平澤の身近な対象を真摯な目でとらえた素描類、それに日々書き記された日記の文章を添えて展示する。

戦時下の極限的な生活の中で、必死に生き、勇気を持って画布に向かったひとりの青年の姿は、3・11東日本大震災後に生きる私たちに何かを語りかけてくれるはずだ。

- 2 会期 平成24年6月8日(金)～7月8日(日)
- 3 主催 練馬区立美術館(2F常設展示室)
- 4 内容 平澤熊一の油彩画約40点、水彩・素描など約30点を予定
(栃木県立美術館、遺族アトリエからも作品を借用予定)
- 5 観覧料 無料
- 6 図録 出品作品を掲載したリーフレットを制作
- 7 イベント 学芸員とゲスト(作家関係者)によるギャラリートークを開催予定
- 8 観覧者見込 3,510人(130人/日)
- 9 担当 学芸員 上山陽子

N+N展 2012「感じるアート」(仮称)

開催要項(案)

- 1 開催趣旨 練馬区にある唯一の美術系大学・日本大学芸術学部と練馬区立美術館の共同企画展の第4回展。高橋幸次教授の企画により「感じるアート」(仮称)というテーマで開催。五感を生き生きさせるアートとの出会いを演出する。美術学科の絵画、彫刻ほか、デザインや音楽学科からも参加し、動いたり・動かしたり、音を出したり、触ったり、遊んだりして、わくわくドキドキするようなアートの世界を体験してもらう。
- 2 会 期 平成24年6月28日(木)~7月8日(日)
- 3 主 催 日本大学芸術学部美術学科 / 練馬区立美術館
- 4 内 容 日大芸術学部の教員・卒業生の作品
- 5 観覧料 無料
- 6 図録 展覧会終了後、日藝美術学科から記録集を制作予定
- 7 イベント 出品作家によるアーティストトーク、ワークショップを開催予定
- 8 観覧者数見込 1,300人(130人/日)
- 9 担当 学芸員 上山陽子

ふなだぎょくじゅ
特別展「生誕 100 年 船田玉樹

アヴァン・ギャルド日本画に生きた孤高の画人生」展（仮称）

開催要項（案）

- 1 開催趣旨 日本画家・船田玉樹(1912～91)の没後初の大々的回顧展。
広島県呉市に生まれた玉樹は、最初は油画を学ぶために上京、琳派の華麗な作品を見て感銘、すぐに日本画に転向した。速水御舟(1894-1935)に師事するが、まもなく没したため、その後は小林古径に師事して、謹厳な線描と端麗な色彩を駆使した日本画表現を学んだ。その後、昭和 13 年(1938)からは岩橋英遠や丸木位里らと「歷程美術協会」を結成して、シュールレアリスムや抽象主義などを積極的に取り入れ、日本画を基礎にした前衛表現を戦中まで追究した。
しかし、戦後は、郷里広島にひきこもって創作を続け、岩絵具や墨のみならず油彩やガラス絵など様々な画材とひたすら向き合った作品を残した。その作品は、御舟や古径の芸術の精髓を正統に受け継ぎ、精緻にして絢爛、端麗にして華美、そして豪胆そのものであり、驚くことに、晩年にいたってますます豊かに華やかになっていることだろう。
本展では、晩年まで制作された多彩な作品約 150 点を一挙公開し、絵が人生そのものだったこの特異な画家の全容にせまる。
- 2 会期 平成24年年7月15日(日)～9月9日(日)
*巡回： 広島県立美術館 平成25 年1月14日(月・祝)～2月17日(日)
- 3 主催 練馬区立美術館 / 朝日新聞社
- 4 助成 芸術文化振興基金(予定)
- 5 図録 制作する
- 6 観覧料 有料
- 7 イベント 現代音楽家による記念コンサート
講演会、学芸員とゲストによるギャラリートーク
- 8 観覧者数見込 9,000人(184人/日)
- 9 担当 主任学芸員 野地耕一郎

棚田康司展（仮称）

開催要項（案）

- 1 開催趣旨 彫刻家、棚田康司を紹介する。2001年に文化庁の芸術家在外研修員として派遣されたドイツ、ベルリンでの滞在を経て、棚田の作風は一変した。自らの頭部などを利用していった寓意的な人物像から、他者へと目を向けた人物像へと移行した。それは「子ども」という対象へ焦点を完全に絞り込んだものであった。この主題は現在も続いているが、棚田は単に造形的興味から彼らの像を彫り続けているのではなく、しばしば社会において犠牲者となる「子ども」という存在への棚田自身の強い思い入れがあると言える。棚田の意識は、現代社会を生きる「子ども」たち それは我々の核であるのかもしれない を捉え、作家自身が自らと向かい合う術としているとも、また我々に人間をむき出しにして突きつけているとも捉えられるのではないだろうか。

本展では、これまで一貫して「人間」を、そして「子ども」を彫り続ける棚田の一連の作品群を、新作、及び制作過程のスケッチなども含め網羅的に紹介する。

< 棚田康司略歴 >

1968年、兵庫県生まれ。93年、東京造形大学卒業。95年、東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。2001年、文化庁芸術家在外研修員としてドイツに7ヶ月滞在。05年、「第8回岡本太郎記念現代芸術大賞」特別賞受賞。出品歴多数、昨年は「棚田康司 トー（らせんとえんてい）」展（スパイラルガーデン、東京）を開催。

- 2 会期 平成24年9月16日（日）～11月25日（日）
- 3 主催 練馬区立美術館 / 日経新聞社
- 4 助成 花王財団（内定）、他申請中
- 5 展示内容 木彫を中心とした約60点
- 6 図録 図録兼書籍として制作、青幻舎より出版する。
- 7 観覧料 有料
- 8 イベント 会期中、講演会、アーティストトーク、ワークショップ等を実施する。
- 9 観覧者見込 10,000人（164人/日）
- 10 担当 学芸員 小野寛子

あそ
掌の中で遊ぶ王朝美
「人間国宝 大坂弘道展」
正倉院から甦った珠玉の木芸（仮称）

開催要項（案）

- 1 開催趣旨 おおさかひろみち大坂弘道（1937 生）は 1997 年、重要無形文化財（人間国宝）に認定された練馬区在住の木芸作家。
鳥取県倉吉市に生まれた大坂は東京学芸大学美術科卒業後、練馬区内の中学校で教員を務め、34 歳頃から本橋玉斎、ひみこ永見晃堂（1906 - 75、人間国宝）、たけうちへきがい竹内碧外（1896 - 1986）らに師事、薫陶を受け、唐木細工、指物などの木工技法を独学し研鑽を積む。
1980 年に宮内庁から正倉院宝物の模造を委嘱されてより、教員を辞して調査・研究に没頭。試行錯誤を重ね、ついに失われた技法の再現に成功。1986 年「したんもくがはこ紫檀木画箱」の復元模造を完成し、正倉院に納めている（2 点製作し、内 1 点は当館に寄託）。
東南アジア系のくろがき黒柿やしたん紫檀、うげ黄楊などを素材に、生活工芸とは一線を画した王朝風のクラシカルなスタイルを守りながら、透かし彫りや金属象嵌など新しい技術や復元した技法を駆使して、これまでの木工芸の枠にはまらない精緻かつ多彩な、大坂独自の世界を展開している。年に 1、2 点しか完成を見ない新作には、必ず新しい技法を研究し、取り入れるという姿勢には大坂の気概が感じ取れる。
40 年に亘る制作活動から生み出された作品のほとんどにあたる、約 45 点が当館に寄託されたことを記念して、彼の作品の全貌を紹介する。
- 2 会期 平成 24 年 11 月 29 日（木）～ 2 月 11 日（月・祝）
- 3 主催 練馬区立美術館（2 F 常設展示室）
- 4 内容 寄託を受けた 45 点の作品に加え、新作 5 点、東京国立近代美術館工芸館所蔵品 5～6 点。下図、スケッチ類、道具ほか。
- 5 観覧料 無料
- 6 図録 制作する
- 7 イベント 学芸員、作家によるギャラリートーク。
作家による記念講演会。ほか
- 8 観覧者数見込 10,800 人（180 人/日）
- 9 担当 学芸員 加藤陽介

「超然孤独の風流遊技 小林猶治郎展」

開催要項(案)

- 1 開催趣旨

「こんなに生きて きまりがわるい」が口癖だったという画家・小林猶治郎(こばやし・なおじろう：1897-1990年)。25歳までと余命を宣告されながらも、医師の言葉に反して93歳まで絵を描き続けた。飄々と画家人生を歩んだ猶治郎を紹介する公立美術館では初の展覧会である。

猶治郎は東京の下町・墨東向島で少年時代を過ごす。肺を病み1918年に慶応大学普通部を中退してからは、残りの人生は好きな絵を描いて過ごそうと、葵橋洋画研究所や日本美術学校洋画科で学びなおす。1927年第8回帝展に なぎさ が初入選。牧野虎雄に師事し、槐樹社展ならびに旺玄会展を中心に発表した。

伸びのある力強い筆触で描かれた初期作 沼べり から、造形的な実験と静謐な詩情を感じさせる 作品 15(印象) 、それに「油彩日本画」と称した俳味を強く感じさせる晩年の作まで、油彩画、素描など約80点を一堂に展覧する。また子どもたちとの交流し、まぶしい感性を受けとめた 童心双六 のような愛情あふれる作品からは、生涯を通して子どもへの視点を持ち続けた猶治郎という人物をうかがう事ができるだろう。

本展は、晩年過ごした練馬の画室に残された作品を調査し、修復作業を経て展示するものである。猶治郎が語る「超然孤独の風流遊技」の全貌を明らかにする。
- 2 会 期 平成25年2月17日(日)～4月7日(日)
- 3 主 催 練馬区立美術館 / 読売新聞社 / 美術館連絡協議会
- 4 内 容 小林猶治郎の油彩画、素描、資料など80点程度。
- 5 図 録 制作する
- 6 観覧料 有料(*富田有紀子展と共通観覧チケット)
- 7 イベント 学芸員による展示解説など予定
- 8 観覧者数見込 4,440人 (120人/日)
- 9 担 当 学芸員 上山陽子

特集展示「富田有紀子展」(仮)

開催要項(案)

- 1 開催趣旨 富田有紀子(とみた・ゆきこ/1958年東京生まれ)を特集展示する。
高校在学中から旺玄会展に出品していた富田は、1980年に女子美術大学絵画科を卒業。平面作家の登竜門のひとつ「VOCA'96 現代美術の展望展」で奨励賞を受賞し注目を集める。この頃は、やわらかな襞が気を孕みひろがっていくような抽象画を主に描いていたが、近年では色鮮やかな花や果実を画面いっぱいに描き出し、まわりの空間まで暖かな光に包まれるような美しい油彩画を発表している。ときにそれらは一つの壁面上で複数組み合わせられ、清らかで力強い印象を観るものに与える。
富田は幼い頃から祖父・小林猶治郎に愛され、自然と絵の世界に接近して行った。企画展「小林猶治郎展」と同時に開催する本展は、現代美術家・富田有紀子の魅力を紹介するとともに、大正から昭和にかけて活躍した祖父と、今日注目のアーティストの時空を越えた二人の共演となる。
- 2 会 期 平成25年2月17日(日)~4月7日(日)
- 3 主 催 練馬区立美術館(2F常設展示室)
- 4 内 容 富田有紀子の油彩画など50点程度。
- 5 図 録 リーフレットを作成する
- 6 観覧料 有料 (*小林猶治郎展と共通観覧チケット)
- 7 イベント 学芸員と出品作家による展示解説など予定
- 8 観覧者数見込 4,440人 (120人/日)
- 9 担 当 学芸員 上山陽子

(3)平成24年度 教育普及事業計画(案)

館内事業

) 展覧会関連 (各展覧会を楽しむ)

関連ワークショップ・講座

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員・参加人数
1	鹿島コレクション2 バルビエ×ラブルール 関連ワークショップ 講師:網中いづる(イラストレーター)	6月3日(日) 14:00~17:00	1回	小学生以上	20名
2	鹿島コレクション2 バルビエ×ラブルール 関連ワークショップ 講師:松尾由佳(アートディレクター・デザイナー)	4月28日(土) 13:30~17:00	1回	小学4年生以上	20名
4	船田玉樹展関連ワークショップ「絵具をつくる」 講師:当館学芸員	8月	3回	小学1年生 ~3年生	各回20名
5	船田玉樹展関連講座「日本画を描く」 講師:当館学芸員	8月	2回 (各2日間)	小学4年生 ~中学3年生	各回20名
6	大阪弘道展関連講座 講師:大阪弘道	1月	1回	未定	未定

ギャラリートーク

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員・参加人数
1	平澤熊一展	6~7月(土)	未定	自由参加	
2	船田玉樹展	7~9月(土)	未定	自由参加	
3	棚田康司展	9~11月(土)	未定	自由参加	
4	コレクション展 大阪弘道展	12月(土)	2回	自由参加	
5	小林猶治郎展	2~4月(土)	未定	自由参加	

コンサート・ライブパフォーマンス

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員・参加人数
1	鹿島コレクション2 バルビエ×ラブルール 関連ラ・フォルジュルネ・オ・ジャポンによるスペシャルコンサート 出演:亀田賢(ピアノ)、奥村智洋(ヴァイオリン)	4月22日(日)・29日(日) 15:00~	2回	自由鑑賞	各回150人

鑑賞プログラム

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員・参加人数
2	トコトコ美術館	8、1月	2回	3歳~6歳 +保護者	各回5組
3	拡大!美術館	8、1月	2回	小学1・2年生 以上	各回5名

講演会など

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員・参加人数
1	鹿島コレクション2 バルビエ×ラブルール 関連講座「狂乱の時代 1920年代のフランス美術」 講師:高階秀爾氏(西洋美術振興財団理事長、大原美術館館長)	4月21日(土) 14:30~16:00	1回	中学生以上	70名
2	鹿島コレクション2 バルビエ×ラブルール 関連講座「好きなものは何でも蒐めたい! コレクションの楽しみ」 講師:鹿島茂氏(フランス文学者、明治大学国際日本学部教授)	4月15日(日) 14:30~16:00	1回	中学生以上	70名
3	鹿島コレクション2 バルビエ×ラブルール 関連講座「バルビエ×ラブルール 色彩と線描のイラストレーション」 講師:鹿島茂氏(フランス文学者、明治大学国際日本学部教授)	5月6日(日) 14:30~16:00	1回	中学生以上	70名

4	鹿島コレクション2 バルビエ×ラブルール 関連講座 「装飾芸術の華 アールデコファッションとファッションブ レート」 講師: 深井晃子氏(京都服飾文化財団チーフ・キュレーター)	5月19日(土) 14:30~16:00	1回	中学生 以上	70名
5	鹿島コレクション2 バルビエ×ラブルール 関連講座 「踊る絵画、動く色彩/バレエ・リュスの世界」 講師: 鈴木晶氏(法政大学教授、早稲田大学大学院客員教授)	5月26日(土) 14:30~16:00	1回	中学生 以上	70名

）美術講座 (美術に関する知識を学ぶ)

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員・参加人数
1	美術史 講師:未定	9~10月	2回	中学生 以上	各回60名
2	絵画実技 講師:未定	11月	1回 (2日間)	中学生 以上	15名
3	デッサン 講師:黒石千恵子(女子美術大学日本画研究室助	1月	1回 (2日間)	中学生 以上	20名
4	立体実技 講師:未定	2月	1回 (2日間)	中学生 以上	15名
5	おでかけ美術館 講師:当館学芸員	3月	2回	小学4~6年 生	各回10名

）美術館を楽しむワークショップ(人が集う「場」作り)

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	幼児対象ワークショップ 講師:東山佳永(踊り手)、齋藤紘良(作曲家)、未定(美術家) 身体・音・造形を組み合わせた連続ワークショップ。最終日 の午後にはロビー又は屋外で簡単なパフォーマンスを行う。	6~8月(土) 1・2回10:30~12:00 最終回10:30~15: 00	3回	4~6歳 (未就学児)	20名
2	四季のみじたく シリーズ 夏のみじたく 講師:イシイリョウコ(イラストレーター)	7月7日(土) 10:30~17:00	1回	小学4年生 以上	15名
3	美術館をつかまえる!?館内探検とフロッターージュ遊び	8月	3回	5歳~ 小学3年生	各10名
4	四季のみじたく シリーズ 秋のみじたく 講師:未定	9月(土)	1回	小学4年生 以上	15名
5	四季のみじたく シリーズ 冬のみじたく 講師:未定	11月(土)	1回		15名
6	四季のみじたく シリーズ 春のみじたく 講師:未定	3月(土)	1回		15名

）その他

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員・参加人数
1	軽井沢お泊りワークショップ 講師:伊藤さち(作家)、中村圭佑(内装、家具デザイ ナー) ベルデ軽井沢で行う1泊2日のワークショップ2回目。	11月3日(土) ~4日(日)	1回 (2日間)	小学生以上	20名

学校関連事業

）スクールプログラム パンフレットを作成し各学校に配布。

- 団体鑑賞 美術館担当者がマナーの説明や展示解説を行い鑑賞のお手伝いをする
- 施設見学 各学校の学習目的に合わせて館内(バックヤードを含む)を案内し、施設全体を紹介する
- 職場体験 受付や事務、監視、学芸などいくつかの仕事を体験させ、美術館全体の役割を伝える
- 職場訪問 職場体験の事前学習として来館する生徒による館内職員へのインタビューなどを受ける
- 出張プログラム 担当者が学校へ赴きコレクションや開催中の展覧会に関連した授業のお手伝いをする

）ティーチャーズデイ

当館及び当館主催の展覧会を、授業等で活用していただくために、区内の小中高等学校の先生を対象とした展覧会鑑賞日を設ける。各日ともに展示担当学芸員(または教育普及担当)による展示解説を30分程度行い、その後は自由鑑賞とする。

平成24年度は4回開催する。

	展 覧 会 名	開催予定日
1	鹿島コレクション2 パルピエ×ラブルール	4月17日(火)
2	船田玉樹展	7月24日(火)
3	棚田康司展	9月25日(火)
4	大坂弘道展	12月4日(火)
4	小林猶次郎展	2月22日(火)

）スクールミュージアム スクールプログラム で使用予定

美術館の所蔵作品を学校の授業に役立ててもらうため、紙製の図版カード(トランプ大)、マグネットシート(A4版/A3版)、専用パネルの貸し出しを行う。これらのツールは、平成18年文化庁芸術拠点形成事業助成を受け、当館の所蔵作品から104点を選出し、作成された。

平成23年度事業中間報告

(1) 展覧会事業

平成23年度 展覧会事業日程および観覧者数

企画展

開催期間	展覧会	開催 日数	観覧者目 標 (1日当り)	観覧者実数 (1日当り)	目標比 (%)
(2月23日(火)) ～4月10日(日)	鹿島茂コレクション1 グランヴィル 19世紀フランス幻想版画	9	1,800 (200)	3,432 (381)	190.7%
4月16日(土) ～5月29日(日)	PLATFORM2011 浜田涼、小林耕平、飯島大輔 距離をはかる	38	3,100 (82)	2,384 (63)	76.9%
6月23日(木) ～7月3日(日)	N+N2011 生命を見つめる	10	1,300 (130)	1,168 (117)	89.8%
7月12日(火) ～10月2日(日)	磯江毅 = グスタボ・イソエ ～マドリッド・リアリズムの異才	72	15,000 (208)	27,695 (385)	184.6%
10月9日(日) ～11月23日 (水・祝)	生誕130年 松岡映丘 日本の雅 「やまと絵」復興のトップランナー	39	7,000 (179)	9,135 (234)	130.5%
2月19日(日) ～4月1日(日)	日本画壇の風雲児、中村正義 新たなる全貌	37	7,000 (189)	7,000 (189)	100.0%
合 計		196	35,200 (180)	50,814 (259)	144.4%
前年度		188		26,041 (139)	前年度比 195.1%

グランヴィル展観覧者数は、4月1日～4月10日の人数。
中村正義展の実数は、見込数と同数とした。

2階常設展示室によるコレクション展

観覧者数は、同時開催の企画展がある場合はその観覧者数、ない場合は常設展示室のの入場者数から

開催期間	展覧会	開催 日数	観覧者目 標 (1日当り)	観覧者実数 (1日当り)	目標比 (%)
6月3日(金) ～7月3日(日)	特集展示 うす羽の幻想 鎗木昌弥展	27	2,700 (100)	3,462 (128)	128.2%
6月4日(金) ～7月19日(月・祝)	特集展示 滝瀬源一 スクラッチボードに見る 60・70年代の大衆文化展	24	2,400 (100)	4,040 (168)	168.3%
9月14日(火) ～10月24日(日)	特集展示 昭和初期のサラリーマン・コレクター 森井荷十コレクション展	32	7,040 (220)	5,995 (187)	85.2%
合 計		83	12,140 (146)	13,497 (163)	111.2%
前年度		148	観覧者数 1日当り	22023 (149)	前年度比 61.3% 109.4%

企画展・コレクション展観覧者数(実数)比較	22年度	23年度見込	前年度比
	39,156	64,311	164.2%

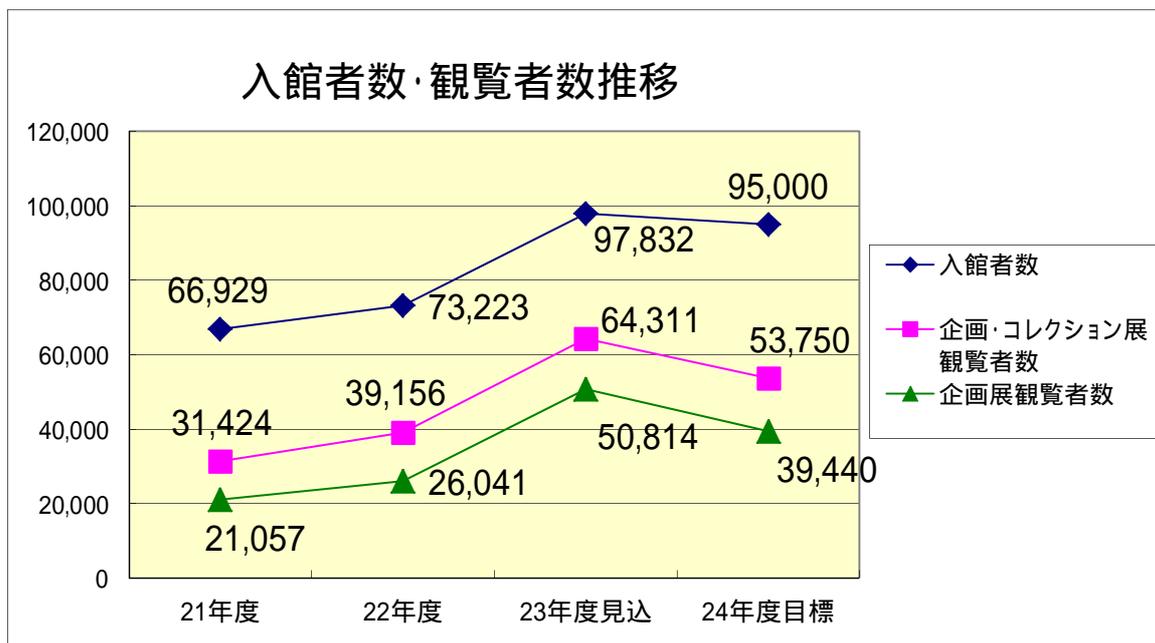
観覧者数は目標を大きく上回った。練馬区立美術館の知名度および理解度はアップし、存在感は増したと思われる。

その理由としては、PR、宣伝活動(テレビ・ラジオの番組・CM、新聞記事・広告、マスコミとの共催、Webコンテンツの利用など)や、マスコミとの共催、企業の協賛、諸団体の後援(フランス大使館、スペイン大使館)、助成(野村財団)の獲得などを積極的に行なったことが考えられる。

各種展覧会

開催期間	展覧会	開催日数	観覧者実数 (1日当り)	
6月3日(金) ～6月12日(日)	第56回練馬区美術家協会展	9	1,627 (181)	
1月14日(土) ～1月18日(水)	中学校生徒作品展	4	2,759 (690)	
1月21日(土) ～1月26日(木)	小学校連合図工展	5	8,860 (1,772)	
1月28日(土) ～1月29日(日)	小・中学校連合書初め展	2	11,117 (5,559)	
2月4日(土) ～2月14日(火)	第42回練馬区民美術展	9	2,930 (326)	
合 計		29	27,293 (941)	前年度比 104.3%
前年度		29	26,167 (902)	

入館者数比較	22年度	23年度見込	前年度比
	73,223	97,832	133.6%



PLATFORM 2011

浜田涼・小林耕平・鮫島大輔 距離をはかる

開催要項

- 1 開催趣旨 幅広い視野で現代美術の動向の一端を紹介する「PLATFORM」展。第2回目の本展は、「“私”と“世界”との距離」をテーマとし、浜田涼（1966～）、小林耕平（1974～）、鮫島大輔（1979～）の展示を行った。
浜田涼は、対象のあいまいな写真を用いて自身と世界との狭間を問い、小林耕平は明確でありながらつかみどころのない映像によって見るものに所在ない心持を与える。また鮫島大輔は物語を廃した日常の空間を、時にトリッキーに、時に淡々と掴み描きだすことにより、奇妙な世界観を生み出している。これら作家に共通するものとして、自身とそのまわりに在る世界との距離感を押し量る姿勢が見られる。本展は、鑑賞者が自身を取り巻く空間について「現代美術で考え」「現代美術を実感する」場の提供を行うことを目的とした。
- 2 会期 平成23年4月16日（土）～5月29日（日）
（震災の影響により、会期を1週間短縮）
- 3 主催 練馬区立美術館
- 4 内容 浜田：平面作品53点
小林：映像作品6点、映像を含むインスタレーション1点
鮫島：平面作品約14点、立体作品約14点
- 5 図録 1作家1冊（3種）の図録を制作。
- 6 観覧料 有料
- 7 イベント 4月10日（日）、16日（土）15:00～、5月7日（土）16:00～ ギャラリートーク
4月17日（日）ライブパフォーマンス：東山佳永（踊り手）×橋本和昌（作曲家/演奏家）
4月23日（土）16:00～17:30 3作家と担当学芸員によるクロストーク
4月23日、5月7日（土）11:30～15:30 パフォーマンス：小林耕平×core of bells
5月14日（土）15:00～16:00 鑑賞プログラム「トコトコ美術館」
5月21日（土）14:00～15:30 講演会：斉藤由香
- 8 観覧者数 2,384人（63人/日） 当初見込3,100人（82人/日）
- 9 担当 学芸員補 真子みほ

特集展示 うす羽の幻想 鎚木昌弥展

開催要項

- 1 開催趣旨 画家・鎚木昌弥（かぶらぎ・まさや）は、1938年に東京生まれ、1962年多摩美術大学油画科を卒業。人形劇団に所属し、人形やアニメーションの美術制作、絵本の挿絵画などに携わりながら、画家としての活動をスタートした。1963年から前衛美術展に出品、1970年からは前衛美術会から改組した「齣展」に中村宏らとともに参加しました。はじめは油彩画を描いていた鎚木だが、はやくから画材としての鉛筆に価値を見出し、モノクロームに近い禁欲的な画面を手に入れる。細部の集積でできあがったような緻密な描写には目を奪われる。それは、まるで1篇の詩を読んでいるかのごとく、彼の想像の世界に観るものを引きずりこむ力を持っている。鉛筆と共に、和紙に水彩絵具を使った作品なども、音のないスローモーションの映像を見ているかのような柔らかな詩情を感じさせる。

長らく練馬区石神井に住んでいたことを機縁に、その画業を網羅するまとまった作品群が、練馬区立美術館のコレクションに加わった。そのなかから今展では49点の作品をセレクトし、鎚木昌弥の画業をご紹介します。
- 2 会 期 平成23年6月3日(金)～7月3日(日)
- 3 主催 練馬区立美術館（2階常設展示室）
- 4 内 容 鎚木昌弥の油彩・水彩画、鉛筆画など作品49点
- 5 観覧料 無料
- 6 印刷物 出品作品の図版を掲載したA4四つ折りリーフレットを無料配布
- 7 イベント 学芸員によるギャラリートーク
6月4日(土) *手話通訳つき
6月11日(土) *ゲスト：鎚木昌弥（出品作家）
6月18日(土)、6月25日(土)、7月2日(土)
- 8 観覧者数 3,462人(128人/日) 当初見込 2,700人(100人/日)
- 9 担 当 学芸員 上山陽子

N + N 展 2011 生命を見つめる

開催要項

- 1 開催趣旨 練馬区にある唯一の美術系大学・日本大学芸術学部と練馬区立美術館の共同企画展の第3回展。高橋幸次教授のキュレーションにより「生命を見つめる」というテーマで開催。いまこのときに、美術や芸術は人々の心に響き、私たちが生きてゆくのを助ける力があると信じ、改めて生命そのものの力、いとおしさ、尊さを静かに見つめ考える。出品作品は美術学科の絵画・版画・彫刻のほか、さらに領域を広げデザイン、映画、写真学科からも参加し、命をみつめる幅広い表現が会場にならんだ。
- 2 会 期 平成23年6月23日(木)～7月3日(日)
- 3 主 催 日本大学芸術学部美術学科 / 練馬区立美術館
- 4 内 容 日大芸術学部の教員・卒業生と日藝コレクションなど、90点の作品
【絵画】 設楽 俊 / さとう陽子 / 宮崎健太郎 / 井上 誠 / 宮崎真弓
【版画】 笹井祐子 / 宮沢真徳 / 大場英二 / 鶴巻貴子 / イシイヨシト / 柿沼朋実 / 菊池史子 / 鈴木誠一
【彫刻】 鞍掛純一 / 内山翔二郎 / 正親優哉 / 平林 洋 / 深山香里 / 柳原義達
【デザイン】 木村政司
【映画】 奥野邦利 / 石井陽之 / 田中廣太郎
【写真】 鈴木孝史 / 小泉定弘 / 秋元貴美子
- 5 観覧料 無料
- 6 図録 展覧会終了後、日藝美術学科が記録集を制作
- 7 イベント シンポジウム「生きているって何だろう 生命を見つめて」
6月25日(土)午後3時～5時 練馬区立美術館創作室 (57名)
パネリスト：高橋幸次、鞍掛純一、笹井祐子、鈴木孝史、奥野邦利、木村政司
ワークショップ 7月3日 鞍掛純一「針金で動物作り」
- 8 観覧者数 1,168人(117人/日) 当初見込 1,300人(130人/日)
- 9 担当 学芸員 上山陽子

特別展 磯江毅 = グスタボ・イソエ マドリード・リアリズムの異才

開催要項

- 1 開催趣旨 磯江毅(1954-2007)は大阪に生まれ、大阪市立工芸高校を卒業後間もなく単身でスペインに渡り、30年余りの長きにわたる滞西の間に油彩による写実絵画を探求した。やがてマドリード・リアリズムの重要な作家のひとりとして認められ、アントニオ・ロペス・ガルシアなどから高い評価を受けた。彼のリアリズム表現は文字通り事物の細部まで深く入り込んで具象的に描ききるだけでなく、現実世界が内包する神秘的なものまで捉えようとしているような精神の深まりを感じさせる。其の根底には生死をかかえこむ生き物への深い洞察と諦観が見て取れる。そして、生涯をかけた絵による存在探求の試みは、絵画の高みを示すものとして、死後もなお輝きを発し続けている。
本展は、磯江の初期から絶作までの代表作約80点とデッサン等40点をあわせた大々的な回顧展として彼の軌跡をたどるとともに、その稀有な画業を追想した。
- 2 会期 練馬区立美術館 2011年7月12日(火)～10月2日(日)
*その後奈良県立美術館(同年10月22日～12月18日)に巡回
- 3 主催 練馬区立美術館 / 朝日新聞社
- 4 協力 彩鳳堂画廊
- 5 後援 スペイン大使館
- 6 展示内容 「人物」1982年、「子供」1986年、「静物」1987年、
「白いセーターの少女坐像」1990年、「新聞紙の上の裸婦」1994年、
「虚栄と私」2001年、「マルメロ」2004年、「鯛」2007年、
「横たわる女(未完)」2007年、他
- 7 図録 既存画集を再編集(美術出版社)
- 8 観覧料 有料
- 9 イベント 講演会 7月23日 逢坂剛「スペインの昨今」
講演会 9月24日 木下亮「磯江毅とマドリード」
講座 8月6日・7日 「油彩画に挑戦!リアリズムって何だ?」
学芸員とゲスト・アーティストによるギャラリートーク
8月6日、8月20日、9月3日
- 10 観覧者数 27,695人(385人/日)当初見込 15,000人 (210人/日)
- 11 担当 学芸員 野地耕一郎

生誕130年 松岡映丘 - 日本の雅 - 「やまと絵」復興のトップランナー展

開催要項

- 開催趣旨** 兵庫県福崎町に生まれた松岡映丘（まつおか・えいきゅう 1881～1938）は、儒者の父、国文学者で歌人の井上通泰、民俗学者の柳田国男、言語学者の松岡静雄らを兄にもつ学者一家に育つ。はじめ橋本雅邦に師事、後に山名貫義に入門し大和絵を学ぶ。東京美術学校を主席で卒業し、武者絵から画業をスタートするが、平安・鎌倉期の伝統的な大和絵や有職故実を丹念に研究し、修めていく姿勢は彼の育った家庭環境に由来していると考えられる。しかし、その表現は古典にはとどまらず、近代的な造形感覚を加味した「新興大和絵」を展開していく。その成果が「右大臣実朝」へと結実し、水谷八重子をモデルとした「千種の丘」でよりモダンな作品へと開花していくこととなる。「古典の教養に立脚して時代に生きよ」と弟子たちに語った言葉はまさに映丘の画業そのままを表している言葉といえよう。

この展覧会では映丘16歳の最初期の作品から晩年にわたる約70点の作品でその画業を紹介。加えて、映丘の生家に残されているスケッチ、画稿も合わせて展示し、その制作の原点、過程を探った。
- 会期** 平成23年10月9日（日）～11月23日（水・祝）
* 姫路市立美術館（4月16日～5月29日）
島根県立美術館（6月10日～7月18日）で開催の後
- 主催** 練馬区立美術館 / 日本経済新聞社
- 内容** 作品6点、資料26点、参考品5点
- 図録** 3館共通図録を制作
- 観覧料** 有料
- イベント**

特別講演会	11月5日	山下裕二「最期のやまと絵師・松岡映丘を応援する」
美術館賞講座	10月30日	岩佐光晴「平泉中尊寺と平安の仏たち」
	11月12日	高岸輝「やまと絵の一千年」
記念コンサート	10月29日	川村旭芳（筑前琵琶）
学芸員によるギャラリートーク	10月15日・22日、11月19日	
- 観覧者数** 9,135人（235人/日） 当初見込7,000人（180人/日）
- 担当** 学芸員 野地耕一郎、加藤陽介

滝瀬 源一 スクラッチボードに見る 60・70 年代の大衆文化 展

開催要項

- 開催趣旨** 東京都下谷生まれ、練馬区在住の滝瀬源一（たきせ・げんいち 1918～）は、1953年から毎年二紀展に出品してきた陶彫家であり、かたわらイラスト原画にスクラッチボードを用いた挿絵画家でもあった。スクラッチボードとは厚紙に黒インクが塗布された画材。表面を針先で削ることで白い線が現れ、版を作らず小口木版のような繊細な線の絵柄が完成する。

それまでペンや筆でイラストを描いていた滝瀬は、1967年、「ジュール・ヴェルヌ全集」（集英社）の挿絵において、初めてこの画材を取り入れ、その後、「週刊大衆」や「小説推理」などの大衆雑誌、新聞小説の挿絵、千葉真一主演映画のポスターなど、主に60年代から70年代にかけ、数多くのイラストを手がけてきた。滝瀬の表現は、必ずしもこの時代を代表するものではないが、当時の世相や社会風俗の一面を色濃く反映したものであった。

展覧会では滝瀬源一のスクラッチボード作品を通し、60・70年代大衆文化の一端をお楽しみいただいた。
- 会期** 平成23年11月29日（火）～12月25日（日）
- 主催** 練馬区立美術館（2階常設展示室）
- 内容** 滝瀬源一のスクラッチボード原画約100点、作品掲載印刷物30点
- 図録** 無料配布のリーフレットを制作
- 観覧料** 無料
- イベント** 担当学芸員による下記イベントを開催した。

12月4日（土）12月25日（日）14:00～ ギャラリートーク
12月24日（土）15:00～16:00 鑑賞プログラム「トコトコ美術館」
12月17日（土）13:30～17:00 実技講座「削ってカキ描きスクラッチボード体験」
- 観覧者数** 4,040人（168人/日） 当初見込 2,400人（100人/日）
- 担当** 学芸員 真子みほ

特集展示 昭和初期のサラリーマン・コレクター 森井荷十コレクション展

開催要項

- 1 開催趣旨 明治末から戦前にかけて活動した森井荷十(1885~1948)は近代川柳の先駆者として川柳史にその名を刻む作家であるが、私生活では勤続40年にも及ぶいちサラリーマンであった。荷十が昭和初め頃から収集したコレクションはそうした川柳作家、都市生活者として眼差しを感じさせるものである。近代都市の時世粧を綴った川柳作家らしくその内容は、江戸から移り行く東京の姿をとらえた小林清親(1847~1915)の木版画や近代都市を独特のタッチで捉えた小野忠重(1909~90)らの創作版画。鏑木清方(1878~1972)、橋本関雪(1883~1945)、木村荘八(1893~1953)ら当時人気の日本画家たちの肉筆画が中心となっている。こうした絵画作品とともに荷十の川柳や親交のあった作家たちの作品も併せて紹介した。サラリーマンコレクターのはしりとも言える荷十の蒐集品に、帝都東京のイメージを絵画・文学の両面から感じさせる展覧会となった。
- 2 会期 平成24年1月8日(日)~2月14日(火)
- 3 主催 練馬区立美術館(2階常設展示室)
- 4 内容 日本画掛軸、版画等101点
- 5 図録 リーフレットを制作した。
- 6 観覧料 無料
- 7 イベント 講演会 2月4日 笹木繁男「大人のためのコレクター養成講座」
講座 2月5日 尾藤一泉「親と子でつくる川柳画」
ギャラリートーク 1月14日・28日
- 8 観覧者数 5,594人(187人/日) 当初見込 7,040人(220人/日)
- 9 担当 学芸員 加藤陽介

特別展「日本画壇の風雲児、中村正義 新たなる全貌」

開催要項

- 1 開催趣旨 戦後の日本画壇において、新時代に対応する新しい日本画改革の先頭に立って活躍した前衛日本画家・中村正義(1924~77)。若くして日展会員となりながら、1952年持病の肺結核が再発し療養生活を余儀なくされるが、1957年の日展から出品を再開。その後審査員にもなるが、61年には生来の批判精神と日本画壇の因襲への反発心から日展を脱退。

60年代以降は、画風を一転させ、絵具に蛍光塗料を混ぜて描いた《男と女》シリーズ、映画『怪談』のために描いた大作《源平海戦絵巻》などの前衛的な作品を制作して、在野の日本画家として活動を開始。1966年には、美術評論家・針生一郎の企画による「これが日本画だ！」展に参加する一方で、仏画や風景画という伝統的な画題でも独自の画風を探究した。74年には、社会的な意識の高い前衛画家によるグループ「从会」を結成、「黒い太陽・七人の画家 从展」を開催して、人間の「顔」に現われた心の闇を描いた作品群を発表。翌年には病苦に堪えながら、この从会を足掛かりに日展に対抗する展覧会として「東京展」を組織・開催。しかし、1977年に肺癌のため52歳の生涯を閉じた。

この展覧会は、かような日本画の既成概念を遥かに超越した多様多彩な作品を描いて、「日本画壇の風雲児」と呼ばれた中村正義の革新的画業のほぼ全貌を紹介している。

- 2 会期 練馬区立美術館 平成24年2月19日(日)~4月1日(日)
*名古屋市美術館(平成23年11月1日~12月25日)との共同開催
- 3 主催 練馬区立美術館 / 東京新聞社
- 4 協力 中村正義の美術館
- 5 図録 制作
- 6 観覧料 有料
- 7 イベント 学芸員とゲスト・アーティストによる特別対談とギャラリートーク
- 8 観覧者数見込 7,000人 (190人/日)
- 9 担当 学芸員 野地耕一郎

(2)平成23年度 教育普及事業実績

平成24年2月19日現在

館内事業

）展覧会関連（各展覧会を楽しむ）

関連ワークショップ・講座

事業名	日程	講師	内容	対象	参加費	定員	申込	参加	
N+N展 関連ワークショップ	針金で動物作り	7月3日(日) 13:00～15:00	鞍掛純一 (日本大学芸術学 部准教授)	針金を使って色々な動物を作った	3歳～大人	無料		49	
磯江毅展 関連講座	油彩画に挑戦！ リアリズムって何だ？ (2日間)	8月6日(土) 10:30～17:00	真子 みほ (当館学芸員)	パワーポイントを使ったリアリズムのお話と磯江展の鑑賞後、自宅から持ってきたモチーフをF4のキャンパスに油彩で描いた	小学4年生 ～中学生	1,000	20	32	19
		8月7日(日) 10:30～17:00							
滝瀬源一展 関連講座	スクラッチボード講座	12月17日(土) 13:00～17:00	真子 みほ (当館学芸員)	260×360mmの下絵を参加者が用意し、スクラッチボードに写し削る体験をした	小学3年生 ～大人	500	20	19	19
森井荷十展 関連講座	親子で作る川柳画	2月5日(日) 14:00～17:00	尾藤一泉 (川柳学会常任理事)	川柳のレクチャーの後、各自川柳を作りこれに絵を添えて色紙を完成させた	小学生と 保護者(こども1人参加可)	300	20	6	5
							60	51	92
						計4回 参加者延92名			

ギャラリートーク

事業名	日程	講師	内容	対象	参加費	定員	申込	参加
PLATFORM展	ギャラリートーク	4月16日(土) 15:00～16:00	鮫島大輔 (作家) × 真子みほ (当館学芸員)	出品作家と担当学芸員によるギャラリートーク		展覧会 観覧料		20
	クロストーク	4月23日(土) 16:00～17:30	浜田涼×小林 耕平×鮫島大 輔×真子みほ (当館学芸員)	出品作家3名と担当学芸員によるトーク(於中央ロビー)		展覧会 観覧料		41
	ギャラリートーク	4月24日(日) 15:00～16:00	浜田涼(作家) × 真子みほ (当館学芸員)	出品作家と担当学芸員によるギャラリートーク		展覧会 観覧料		27
	ギャラリートーク	5月7日(土) 16:00～17:00	小林耕平 (作家) × 真子みほ (当館学芸員)	出品作家と担当学芸員によるギャラリートーク		展覧会 観覧料		35
鎬木昌也展	ギャラリートーク	6月4日(土) 14:00～15:00	上山 陽子 (当館学芸員)	担当学芸員によるギャラ リートーク		展覧会 観覧料		32
	ゲストトーク	6月11日(土) 14:00～	鎬木昌也 (画家) × 上山陽子 (当館学芸員)	出品作家と担当学芸員によるギャラリートーク		無料		57
	ギャラリートーク	6月18日(土) 14:00～	上山 陽子 (当館学芸員)	担当学芸員によるギャラ リートーク		展覧会 観覧料		21
7月2日(土) 14:00～					展覧会 観覧料		37	

磯江毅展	ギャラリートーク	8月6日(土) 15:00～	水野 暁 (画家) × 野地 耕一郎 (当館学芸員)	磯江と縁のある画家と担当学芸員によるギャラリートーク	展覧会 観覧料				70
		8月20日(土) 15:00～	諏訪 敦 (画家) × 野地 耕一郎 (当館学芸員)		展覧会 観覧料				110
		9月3日(土) 15:00～	石黒 賢一郎 (画家) × 野地 耕一郎 (当館学芸員)		展覧会 観覧料				90
松岡映丘展	ギャラリートーク	10月15日(土) 14:00～	加藤陽介 (当館学芸員)	担当学芸員によるギャラ リートーク	展覧会 観覧料				24
	ギャラリートーク	10月22日(土) 14:00～		担当学芸員によるギャラ リートーク	展覧会 観覧料				30
	ギャラリートーク	11月19日(土) 14:00～15:00		担当学芸員によるギャラ リートーク	展覧会 観覧料				68
滝瀬源一展	ギャラリートーク	12月3日(土) 14:00～15:00	真子みほ (当館学芸員)	担当学芸員によるギャラ リートーク	無料				12
		12月25日(日) 14:00～15:30		担当学芸員によるギャラ リートーク	無料				20
森井荷十展	ギャラリートーク	1月14日(土) 15:00～15:30	加藤陽介 (当館学芸員)	担当学芸員によるギャラ リートーク	無料				15
		1月28日(土) 15:00～15:30		担当学芸員によるギャラ リートーク	無料				20
中村正義展	ギャラリートーク	3月3日(土) 15:00～16:00	野地 耕一郎 (当館学芸員)	担当学芸員によるギャラ リートーク	展覧会 観覧料				57
		3月10日(土) 15:00～16:00			展覧会 観覧料				35
		3月17日(土) 15:00～16:00	中村 倫子 (中村正義の美術 館館長) × 野地 耕一郎 (当館学芸員)	担当学芸員とゲストによる ギャラリートーク	展覧会 観覧料				
		3月24日(土) 15:00～16:00	野地 耕一郎 (当館学芸員)	担当学芸員によるギャラ リートーク	展覧会 観覧料				
		3月31日(土) 15:00～16:00	大野 俊治 (人人会会員、豊 橋市美術博物館 主任学芸員) × 野地 耕一郎 (当館学芸員)	担当学芸員とゲストによる ギャラリートーク	展覧会 観覧料				
									821

計23回 参加者延821名

講演会、シンポジウム等

事業名	日程	講師・パネリスト	内容	対象	参加費	定員	申込	参加	
特別講演会	5月21日(土) 16:00～17:30	斉藤由香(サン トリ窓際OL・エッ セイスト)	祖父である歌人斉藤茂吉 や父・北杜生の話や健康で いきいきと生きるコツをお話 いただいた(於視聴覚室)	中学生 以上	観覧料	50	100	70	
N+N展 関連シンポジウ ム	6月25日(土)	高橋幸次(日本 大学芸術学部教 授)・鞍掛純 一、笹井裕 子、鈴木孝 史、奥野邦 利、木村政司 (出品作家)	3.11後の今、改めて表現者 として「生」を考え各立場で 創作について、パネリストと ともに語った(於視聴覚室)	中学生 以上	無料			57	
磯江毅展 関連講演会	7月23日(土)	逢坂剛(作家)	スペインに造詣の深い作家 に磯江が渡西していた頃の スペインについてお話した いただいた(於視聴覚室)	中学生 以上	観覧料	60	73	57	
磯江毅展 関連講演会	9月24日(土)	木下亮(昭和女 子大学教授)	スペインでの磯江との交流 や作品についてお話した いただいた(於視聴覚室)	中学生 以上	観覧料	60	199	70	
松岡映丘展 関連特別講演 会	11月5日(土) 14:00～15:30	山下裕二 (明治学院大学教 授)	映丘作品の魅力と日本美 術史に果たした役割をお話 いただいた(於視聴覚室)	高校生 以上	観覧料	60	95	80	
森井荷十展 関連講演会	2月4日(土) 15:00～16:30	笹木繁男 (現代美術資料セ ンター主宰)	自らのコレクション遍歴とコ レクターの心得をお話した いただいた(於視聴覚室)	高校生 以上	無料	60	32	29	
中村正義展 関連特別対談	2月25日(土) 15:00～16:30	武重邦夫 (映画監督) × 中村倫子 (中村正義の美術 館館長)	本年公開予定の武重監督 による同名記録映画の製 作談義を予定(於視聴覚室)	高校生 以上	観覧料	60	50	50	
						290	549	413	
						計7回 参加者延413名			

コンサート・ライブパフォーマンス

事業名	日程	出演	内容	対象	参加費	定員	申込	参加	
PLATFORM展関連ライブパフォーマンス 「near, far, near, far」	4月17日(日) 14:00～14:30	東山佳永(踊り 手/artist) × 橋本 和昌(作曲家/演 奏家)	PLATFORM展のテーマ に合わせて構成された パフォーマンスを行った (於中央ロビー)		観覧料			62	
PLATFORM展関連パフォーマンス 「運送としょうゆとかくや姫と先生とライ オンと吉田くん」	4月23日(土) 11:30～15:30	小林耕平(作家) × core of bells (バンド)	出品作家とバンドメンバ ーによるパフォーマンスを 行った(於展示室)		観覧料			53	
	5月7日(土) 11:30～15:30				観覧料			60	
松岡映丘展記念コンサート 「琵琶と語りで聴く いにしへの恋のものが たり」	10月29日(土) 16:00～	川村旭芳 (筑前琵琶奏者)	平家物語を琵琶法師の演 奏と語りで聴いた(於中央ロ ビー)		観覧料			92	
								267	
						計3回 鑑賞者延267名			

鑑賞プログラム

事業名	日程	講師	内容	対象	参加費	定員	申込	参加	
PLATFORM2011 展	5月14日(土) 15:00～16:00	真子 みほ (当館学芸員)	浜田涼作品の鑑賞と読み 聞かせ、画用紙でシルエッ トカードを作った	3歳～小学 1年+保護 者	無料	5組	6組 14名	5組 12名	
滝瀬源一展	12月24日(土) 15:00～16:00		絵本『もりのなか』の読み聞 かせと展示室作品内の動 物探し、コラージュを行った	3歳～6歳 +保護者	無料	5組	3組 8名	3組 8名	
								8組 20名	
						計2回 参加者延20名			

）美術講座（美術に関する知識を学ぶ）

事業名	日程	講師	内容	対象	参加費	定員	申込	参加	
目からウロコの日本美術史	「平泉中尊寺と平安の仏たち」 10月30日(日) 14:00～15:30	岩佐 光晴 (成城大学教授)	寺の古の姿から現存する仏像、仏師の系統まで幅広くお話いただいた	高校生以上	観覧券	60	76	61	
目からウロコの日本美術史	「やまと絵の千年」 11月12日(土) 14:00～15:30	高岸 輝 (東京工業大学大学院准教授)	一千年の歴史を、言葉の問題から歴代の絵師、時代ごとの特徴からお話いただいた	高校生以上	観覧券	60	78	63	
初心者向けデッサン	「鉛筆で花を描く」 (2日間) 1月21日(土) 10:30～17:00 1月22日(日) 10:30～17:00	黒石 千恵子 (女子美術大学日本画研究室専任助手)	デッサンの基礎的な話とクロッキー、陰影デッサンを行った 前日に引き続き生花(百合)をデッサンし、コンテで着色した	中学生以上	1,500	20	91	20	
椅子を作る	「見える世界を変える場所」 (2日間) 3月17日(土) 10:30～17:00 3月18日(日) 10:30～17:00	白木 麻子 (美術家)	高さ38cm×座面25×25cmの木製の椅子をつくる。パーツを組み立て構造を学び、原料を和紙とするペーパーコードを使って座面を織む	中学生以上	4,500	15			
おでかけ"国立西洋"美術館[A]	3月27日(火) 10:30～17:00	藁谷裕子 (国立西洋美術館研究補佐員)	当館で西洋美術館の2館を一日で巡りお話を聞き、作品や建物を見ることで、「美術館」それぞれの役割があることを考えるきっかけとする	新小学4～6年生	50	10			
おでかけ"国立西洋"美術館[B]	3月28日(水) 10:30～17:00	真子みほ (当館学芸員)				10			
						155	245	144	
						計7回 参加者延144名			

）美術館を楽しむワークショップ(人が集う「場」作り)

事業名	日程	講師	内容	対象	参加費	定員	申込	参加	
四季のみじたく	夏のみじたく 「紙を重ねてpaper brooch」 7月17日(土) 10:30～12:30	西本良太 (木工作家)	紙を何枚もカットして重ね、厚みを出し好きな形にカットする。これをひとつのモチーフとしていくつも組み合わせブローチに仕立てた	小学4年生以上	300	15	17	13	
	7月17日(土) 14:00～16:00					15	18	13	
美術館をつかまえる!?館内探検とフロッタージュ遊び[A]	8月13日(土) 10:30～12:30	真子みほ (当館学芸員)	館内を探検しながら様々な場所に紙を当て鉛筆でこすり出す方法(フロッタージュ)を使って、美術館をつかまえた	5歳～小学3年生	100	15	20	15	
美術館をつかまえる!?館内探検とフロッタージュ遊び[B]	8月20日(土) 10:30～12:30					15	15	14	
四季のみじたく	秋のみじたく 「秋色コラージュリース」 9月25日(日) 13:30～17:00	石倉まきこ (houtiオーナー)	ユーカリの枝を束ね丸く曲げて土台にし、好きなモチーフを付けリースを作った	小学4年生以上	1,000	15	27	15	
四季のみじたく	冬のみじたく 「テキスタイルから作る冬のオーナメント」 12月4日(日) 13:30～17:00	松尾由佳 (アートディレクター・デザイナー)	白布に染色クレヨンで好きな模様を描きオリジナルテキスタイルに、布はカットしフェルトや市販の布と組み合わせ綿をつめオーナメントに仕立てた	小学4年生以上	1,500	15	6	3	
四季のみじたく	春のみじたく 「スタンドグラスで作る手鏡」 2月25日(土)	nido (スタンドグラス工房兼ショップ)	端ガラスと鏡を組み合わせ、手鏡を作る	中学生以上	1,800	10	43	10	
						100	146	83	
						計6回 延83名			

） その他

事業名	日程	講師	内容	対象	参加費	定員	申込	参加
キャッチフレーズ、ロゴ・マーク導入記念シンポジウム	5月13日(金) 16:00～17:30	葛西薫、ナガクラトモヒコ、古居利康	ロゴマーク導入を記念したシンポジウム(於視聴覚室)	中学生以上	観覧料	50	49	49
軽井沢お泊りワークショップ	10月15日(土)～16日(日) 1泊2日	大小島真木(作家) 高須賀千江子(ダンサー)	ベルデ軽井沢で一泊二日のワークショップを行った。仮面を作り森の中を歩きスケッチを元に絵本を作成した	小学3年生以上 (小学生は保護者と共に申込)	大人8500 子ども5600	20	13	11
						70	62	60
						計2回 延60名		

館内事業計54回 参加者延1900名

学校関連事業

） スクールプログラム 4月にパンフレットを作成し区内小中高等学校に配布。申し込みの際は用紙に記入し送付していただく。

団体鑑賞 A = 簡単な展示概要と作品解説 B = 先生が美術館にて授業を行った

コース名	展覧会	日程	事前訪問日程	学校名	生徒数	引率
Aコース	PLATFORM展	5月24日(火) 10:30～11:15		練馬区立練馬第三小学校・6年2組	64	3
		5月24日(火) 11:30～12:15		練馬区立練馬第三小学校・6年1組		
	磯江毅展	7月22日(金) 11:00～13:00		調布市立第七中学校・美術部	11	2
		9月6日(火) 10:50～12:10		練馬区立練馬第三小学校・6年生	64	3
		9月22日(木) 13:30～		都立工芸高等学校・デザイン科	7	1
		9月23日(金) 11:30～12:15		武蔵大学・芸術史履修生[A]	21	1
		9月23日(金) 12:30～13:15		武蔵大学・芸術史履修生[B]	6	
		9月24日(土) 10:15～11:20		淑徳与野高等学校	13	1
			淑徳与野中学校	2		
	松岡映丘展	10月21日(金) 14:30～15:30		都立武蔵丘高等学校・美術部	10	1
	中村正義展	2月21日(火) 13:10～14:00		山崎学園富士見中学校・2年	238	1
		2月22日(水) 13:10～14:00		山崎学園富士見中学校・2年		
		2月23日(木) 13:10～14:00		山崎学園富士見中学校・2年		
		2月28日(火) 13:10～14:00		山崎学園富士見中学校・2年		
2月29日(水) 13:10～14:00			山崎学園富士見中学校・2年			
3月1日(木) 13:10～14:00			山崎学園富士見中学校・2年			
Bコース						
					436	13
					計15回 延449名	

施設見学 各学校の学習目的に合わせて館内(バックヤードを含む)を案内し、施設を紹介した

コース名	日程	事前訪問日程	学校名	生徒数	引率
施設見学	5月24日(火) 13:30~14:30		日本大学芸術学部・博物館実習履修生	67	1
	5月27日(金) 13:30~14:30		日本大学芸術学部・博物館実習履修生		1
	7月29日(金) 10:00~11:00		練馬区立向山小学校・登校班	6	2
	8月3日(木) 15:00~16:00		都立大泉桜高校・1年生	1	
	9月9日(金) 13:00~15:00		練馬区立関中学校・1年生	37	1
	11月19日(土) 13:00~15:00		武蔵大学・学芸員資格所得履修生1・2年 学習院大学・学芸員資格所得履修生4年	50	1
				161	6
				計6回	延167名

職場体験 受付や事務、監視、学芸などいくつかの仕事を体験させ、美術館全体の役割を伝えた

コース名	日程	事前訪問日程	学校名	生徒数	見回り
職場体験	6月30日(木) ~7月1日(金) 9:30~15:00	6月16日(木) 15:00~	練馬区立石神井西中学校・2年生	2	1
	9月21日(水) ~22日(木) 9:30~15:00	9月2日(金) 14:00~	練馬区立貫井中学校・2年生	3	
	9月28日(水) ~29日(木) 9:30~15:00	9月16日(金) 16:00~	練馬区立石神井東中学校・2年生	2	1
	9月29日(木) ~30日(金) 9:30~15:00	9月16日(金) 14:00~	練馬区立光が丘第三中学校・2年生	3	1
	11月10日(木) ~11日(金) 9:30~15:00	9月28日(金) 14:00~	練馬区立大泉第二中学校・2年生	2	1
	12月2日(金) 14:30~15:00 職場訪問		練馬区立光が丘第二中学校・1年生	4	
	1月17日(火) ~18日(水) 9:30~15:00	1月11日(水)	小金井市立緑中学校・1年生	1	1
	1月19日(木) 9:30~15:00	生徒打合せ 12月15日(木) 15:00~ 事前訪問 1月12日(木) 15:00~	練馬区立中村中学校・1年生	3	1
	2月2日(木) ~3日(金) 9:30~15:00	1月25日(水) 15:30~	練馬区立開進第二中学校・1年生	3	1
	2月3日(金) 14:00~14:50 職場訪問		練馬区立光が丘第三中学校・1年生	6	
2月10日(金) 9:30~15:00	1月26日(木) 16:00~	練馬区立大泉学園中学校・1年生	3	1	
			32	7	
職場訪問は、次年度の職場体験に向け1年生が職場に出向きインタビューなどを行うもの				計11回	延39名

スクールプログラム 計21校 32回 参加児童・生徒・学生 延655名

）ティーチャーズデイ

当館及び当館主催の展覧会を、授業等で活用していただくために、区内の小中学校の先生を対象とした展覧会鑑賞日を設けた。

各日ともに展示担当学芸員(または教育普及担当)による展示解説を30分程度行い、その後は自由鑑賞とした。

展覧会名	日程	参加人数
PLATFORM2011展	4月19日(火) 15:30～16:30	17
磯江毅展	7月12日(火) 15:30～16:30	20
松岡映丘展	10月12日(水) 15:30～16:30	8
中村正義展	2月21日(火) 16:30～17:30	10
		計4回 延55名

）スクールミュージアム

美術館の所蔵作品を学校の授業に役立ててもらうため、紙製の図版カード(トランプ大)、マグネットシート(A4版/A3版)、専用パネルの貸し出しを行った。

これらのツールは、平成18年文化庁芸術拠点形成事業助成を受け、当館の所蔵作品から104点を選出し、作成したもの。

本年度の貸し出し なし

）その他

学外活動受け入れ 都立大泉桜高校美術部部員 延15名(引率延4名)

日時	参加プログラム名	活動内容	人数	引率
8月6日(土)	10:00～18:00 油彩画に挑戦!	プログラムの準備・片付け、写真撮影、制作補助等	5名	1名
8月7日(日)				1名
8月13日(土)	10:00～13:00 美術館をつかまえる!?		4名	1名
8月20日(土)				6名

初任者研修受け入れ

8月13日(土) 10:00～17:00 東京都立桜高等学校 熊谷海燕 教諭
ワークショップ「美術館をつかまえる？」開催時

研修内容：初任者研修課題別研修「ボランティア活動への参加」としてイベントの手伝い等を行った

その他

）**団体鑑賞（一般）** 本年度より一般向け団体鑑賞の申込書を作成し記録する。ただし要望があったときのみ。美術館からの働きか

展覧会	在館予定	担当	団体名	代表者氏名	参加者
磯江毅展	9月30日(金) 10:15～11:45	真子	社29会(世田谷区生涯大学OB会)	中根實	11
松岡映丘展	10月21日(金) 14:30～15:30	加藤	NHK文化センター青山 日本画デッサン教室	斉藤満栄	40
滝瀬源一展	12月7日(水) 15:00～17:00	真子	東京都東村山市立小学校図工部	大森直子	20
					71

計3回 延71名

23年度教育普及事業全参加者(3月11日まで) 計2,696名
22年度教育普及事業参加者 計2,316名

平成23年度 博物館実習実績

実習実施期間 平成23年8月25日(木)～9月4日(日) < 10日間 >

1	武蔵野美術大学	造形学部油絵学科版画専攻	1 名
2	共立女子大学	文芸学部分芸学科文芸メディアコース	1 名
3	跡見学園女子大学	文学部人文学科	1 名
4	埼玉学園大学	人間学部人間文化学科	1 名
5	清泉女子大学	大学院人文科学研究科思想文化専攻	1 名
6	東京工芸大学	芸術学部デザイン学科	1 名
7	駿河台大学	文化情報学部文化情報学科	1 名
8	多摩美術大学	絵画学科油画専攻	1 名
9	武蔵大学	人文学部日本・東アジア比較文化学科	1 名
10	日本大学	芸術学部美術学科絵画コース	1 名
11	昭和女子大学	人間文化学部歴史文化学科	1 名
12	立教大学	大学院文学研究科教育学専攻	1 名
13	明治学院大学	文学部芸術学科	1 名
14	東京造形大学	造形学部デザイン学科	1 名

合計 14 名
(22年度 12 名)

組織改正に伴う美術館条例および美術館運営協議会条例の改正について

1 改正の理由

区では、文化芸術、生涯学習、スポーツ振興に関する施策については、区長部局の組織において一元化を図り、区民の多様な活動の支援、区民との協働の推進、地域コミュニティの活性化等、人づくり、地域づくりの総合的な推進を一体的に展開できる体制を構築するため、平成24年4月1日付けで、組織改正を行うこととした。

そこで、練馬区立美術館の管理・運営については、区長の職務権限とするとともに、美術館運営協議会については区長の附属機関としての役割を明確にするため、練馬区立美術館条例および練馬区立美術館運営協議会条例について、所要の改正を行った。

2 改正の内容

(1) 練馬区立美術館条例

区長が管理・執行する事務となることから、規定中の「練馬区教育委員会」を「区長」に、「練馬区教育委員会規則」を「練馬区規則」に改めた。その他、用語の整理を行った。

(2) 練馬区立美術館運営協議会条例

区長が管理・執行する事務となることから、規定中の「練馬区教育委員会」を「区長」に、「練馬区教育委員会規則」を「練馬区規則」に改め、美術館運営協議会の所掌事項として、区長からの諮問に対する答申に関する規定および所掌事項について区長に意見を述べることができる規定を設けた。

また、公募により区民を委員に加える等美術館運営協議会の構成を変更するとともに、所掌事項について、より専門的な調査検討を行うため、部会の設置に関する規定を設けた。

委員構成は、つぎのとおりとなった。

(改正前)

- (1) 学識経験者 16人以内
- (2) 練馬区議会議員 4人以内
- (3) 学校教育および社会教育関係者
3人以内

(改正後)

- (1) 学識経験者 8人以内
- (2) 練馬区議会議員 4人以内
- (3) 区民 3人以内
- (4) 美術団体関係者 2人以内
- (5) 学校教育関係者 2人以内

3 施行期日

平成24年4月1日

「美術の森緑地」の整備について

～長期計画事業～

<事業の目的>

美術館入口に隣接する美術の森緑地を、美術館の前庭と位置付け、野外展示の場、美術館へいざなう場として一体的に活用する。

美術館と美術の森緑地を、練馬区の観光スポットとして、利用者の拡大を目指すとともに、地域のまちづくりにも貢献する。

<事業の内容>

美術の森緑地に、子どもから大人まで楽しめるテーマの彫刻等を配置するなど、美術館と一体となった整備を行い、屋外展示・イベント機能を有する、人が集う場へと機能を充実させる。基本構想策定にあたっては、美術研究者や地域団体、地域住民をはじめ区内の大学とも連携し、中村橋駅北口地区のまちづくりの一環として整備する。

美術の森緑地

所在地 貫井一丁目 36 番 26 号

敷地面積 約 1,907 m²

<スケジュール>

平成 24 年度 基本構想策定

平成 25 年度 設計

平成 26 年度 整備・開設



美術の森緑地入口

(左側建物：美術館および貫井図書館)

<特色>

「練馬区民の誇りとなり、自慢となる美術館へ」

より多くの区民や美術ファンに愛される美術館を目指し、平成 22 年度は、開館 25 周年を機に、美術館のキャッチフレーズとロゴ・マークを作成した。

これに引き続き、美術の森緑地を整備することにより美術作品の屋外展示を行い、美術館と地域の文化的イメージを高め、練馬区の新たな観光スポットとしてその魅力を発信していく。